

Title	後発メーカーのデファクト・スタンダード奪取戦略
Sub Title	
Author	山内玲子(Yamauchi, Reiko) 和田充夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1391号 その他:一部のみ
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1391

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

後発メーカーのデファクト・スタンダード奪取戦略

近年業界標準を巡る競争に関心が集まっている。それは自社の規格でひとたび標準を獲得してしまえば、その後も優位に戦略を進められるためであり、この動向はエレクトロニクス業界において最も顕著なものとなっている。

これを牽引するのは、業界の地殻変動ともいべき変化である。技術の進展スピードが以前にも増して早くなっていること、中でもデジタル化の影響によって、ハードとソフトの業界間の垣根が低くなっていくこと、それによって、業界をまたがった競争が展開されるようになっていくことの影響である。規格はハードウェアとソフトウェアのような補完製品間の互換性、代替性を規定する仕様である為、覇権者になるべく競争が行われるのである。

しかしこの標準化は、メーカーの利益獲得の為の行動であり、それによって、消費者が正当な便益を享受できるのかということに関しては疑問がある。消費者は自らのライフスタイルに合わせた選択眼を持つ存在へと成長している為であり、従来のプロダクトアウト志向の製品がなかなか普及しないという現実がそれを明らかにしている。

本論文では、山田の理論を用いた規格競争戦略に限界はないか、あるとすればどのような点か、それを克服するにはどうすれば良いか、又具対策はあるのか、ということについて、標準化活動の主流となっているコンソーシアム(協会)活動を中心に研究を進めている。又ネットワーク化の中で新たな地位を求めていくべき存在として後発企業に注目し、それに対する提言を行った。結論として、後発メーカーには、長期スパンによるアンビションの構築に従って、オープンかつクローズドな構造を選択すること、その際のリスクヘッジとして、又促進策として、ユーザーとの関係構築を、製品開発に近い部分で行っていくこと、その為社内外で、ネットワークづくりに励むことが重要であるという事を提言する。